

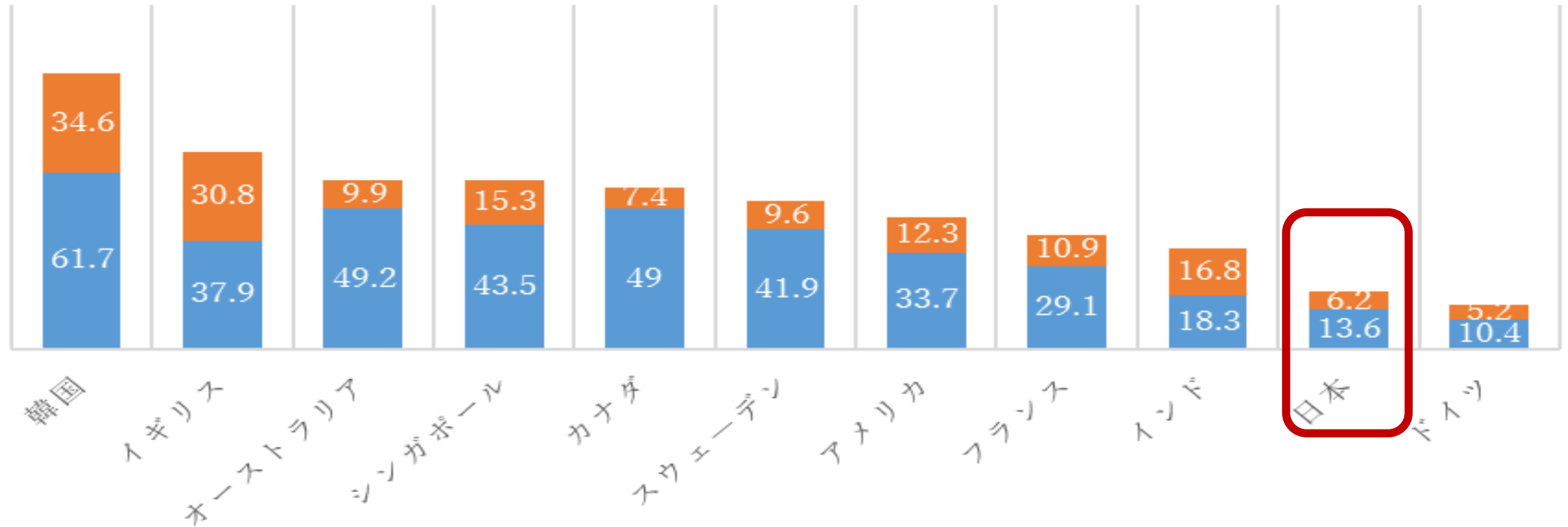
日本の キャッシュレス化

名古屋市立大学 森田ゼミ

高木はるな 川嶋萌 鈴木竣哉 永由真之 原僚佑

キャッシュレス決済比率の各国比率

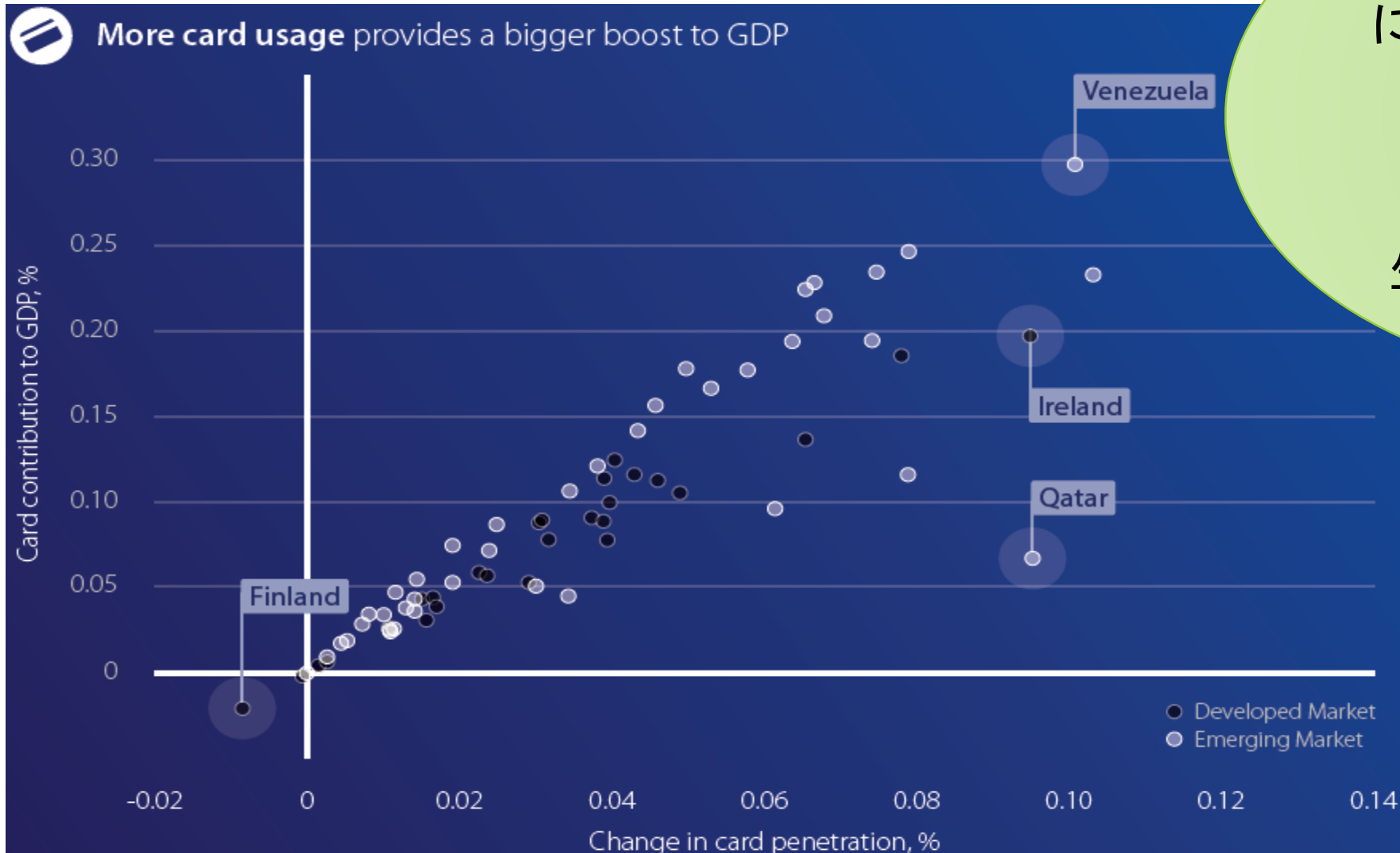
■ 2007 ■ 07→16増加率



引用先 経済産業省データ:キャッシュレス化推進に向けた国内外の現状認識

キャッシュレス化による生産性向上

GDPが上昇する



少子高齢化や人口減少
に伴う労働者人口減少



生産性向上が不可欠

引用先: "The Impact of Electronic Payments on Economic Growth," Moody's Analytics, 2016

不透明な現金の可視化

キャッシュレス決済はお金の流れを記録できる

脱税、裏金、マネーロンダリングがなくなる

安定した税金徴収、犯罪の減少

キャッシュレス化には多くのメリットがある

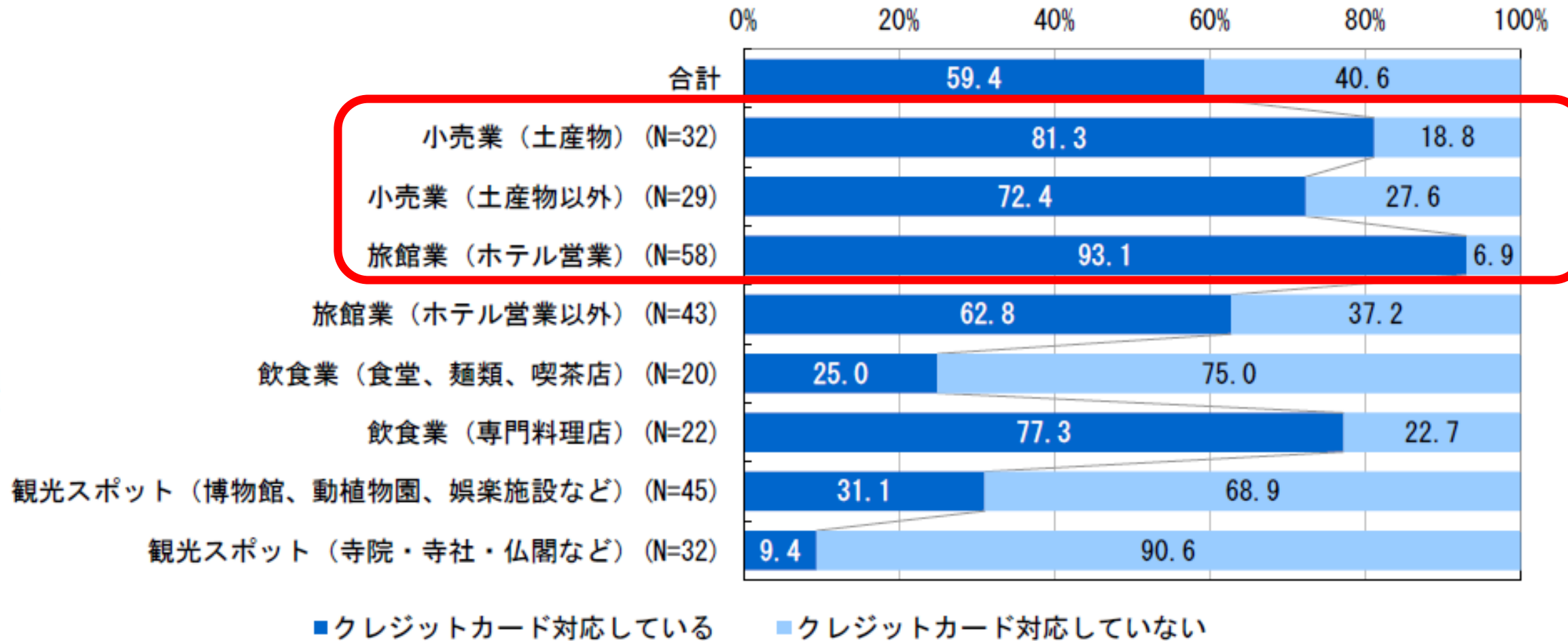
2020年東京オリンピック、
2025年大阪・関西万博開催



キャッシュレス化を推進していく必要がある

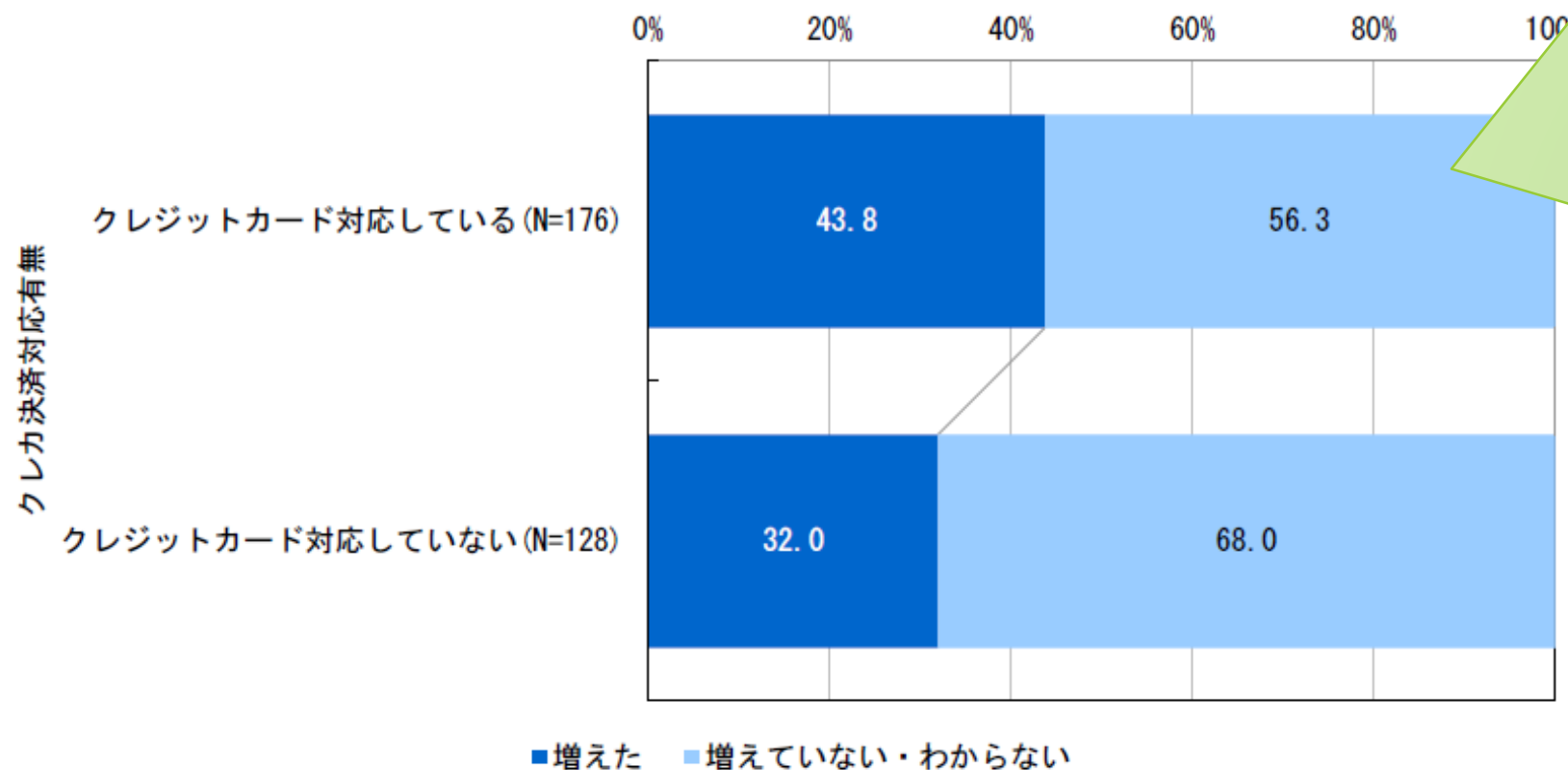
クレジットカード対応有無

業種カテゴリー別



引用先: 経済産業省「観光地におけるキャッシュレス決済の普及状況に関する実態調査」(2017.2)

クレジットカード対応別 売上増減（直近3年間）



増加の要因

A) 現金管理コスト削減
現金決済ミスがなくなる

売上管理

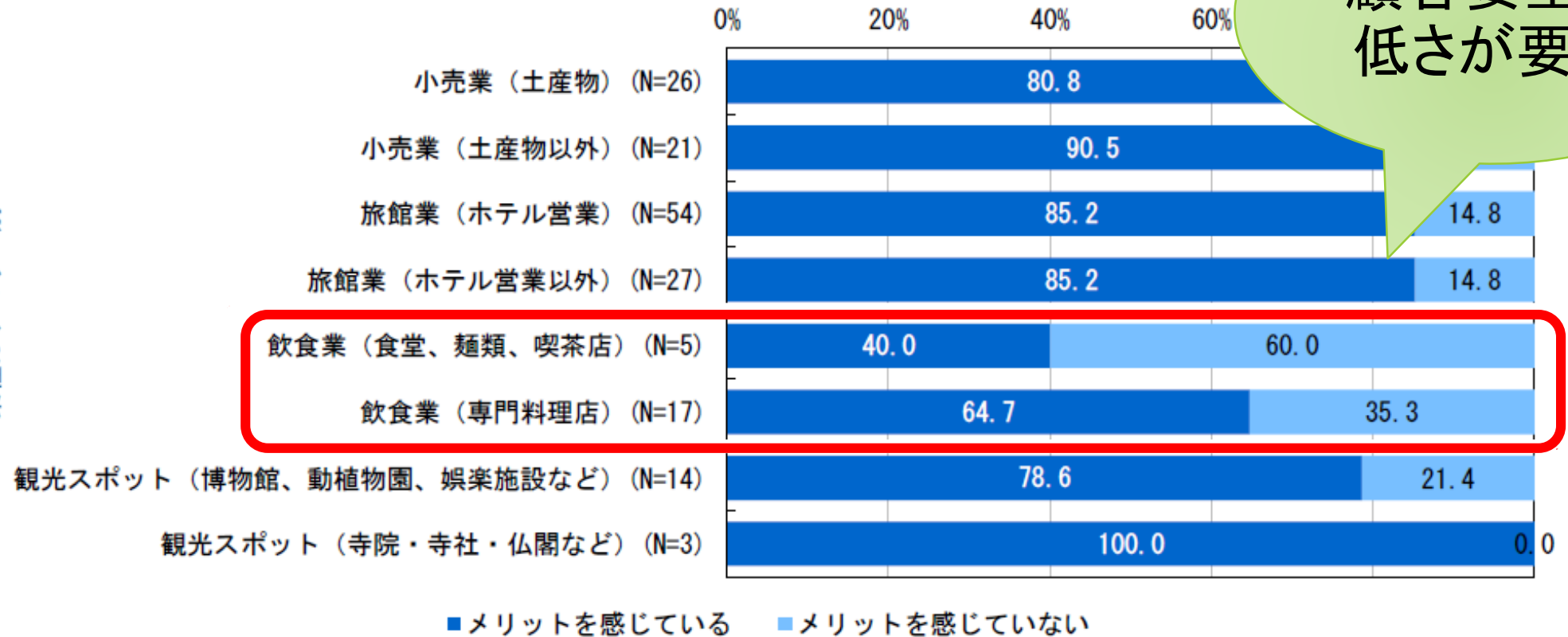
B) 売上機会の増加
決済スピード向上

訪日外国人への対応

引用先: 経済産業省「観光地におけるキャッシュレス決済の普及状況に関する実態調査」(2017.2)

クレジットカード対応済の事業者のメリット実感有無

業種カテゴリー別



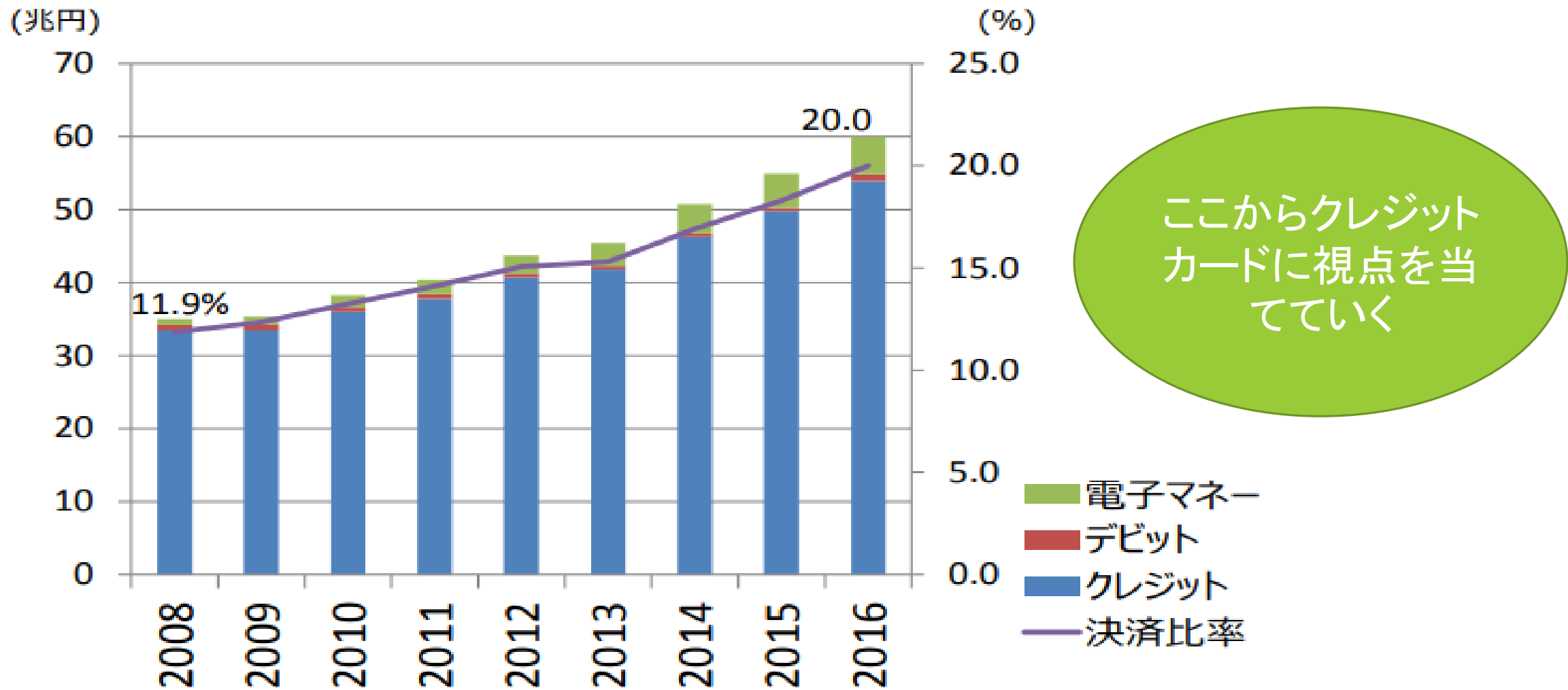
顧客要望の
低さが要因

引用先: 経済産業省「観光地におけるキャッシュレス決済の普及状況に関する実態調査」(2017.2)

消費者はキャッシュレス決済に消極的である

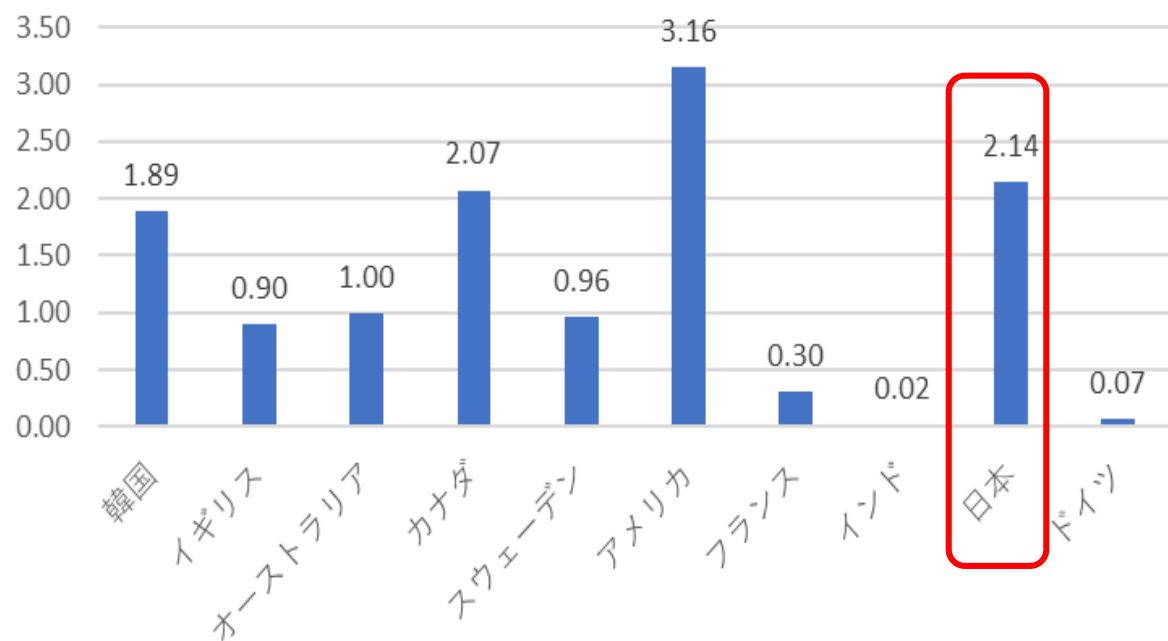
➡ 消費者がキャッシュレス化のKEY

日本のキャッシュレス決済額と民間消費支出に占める比率

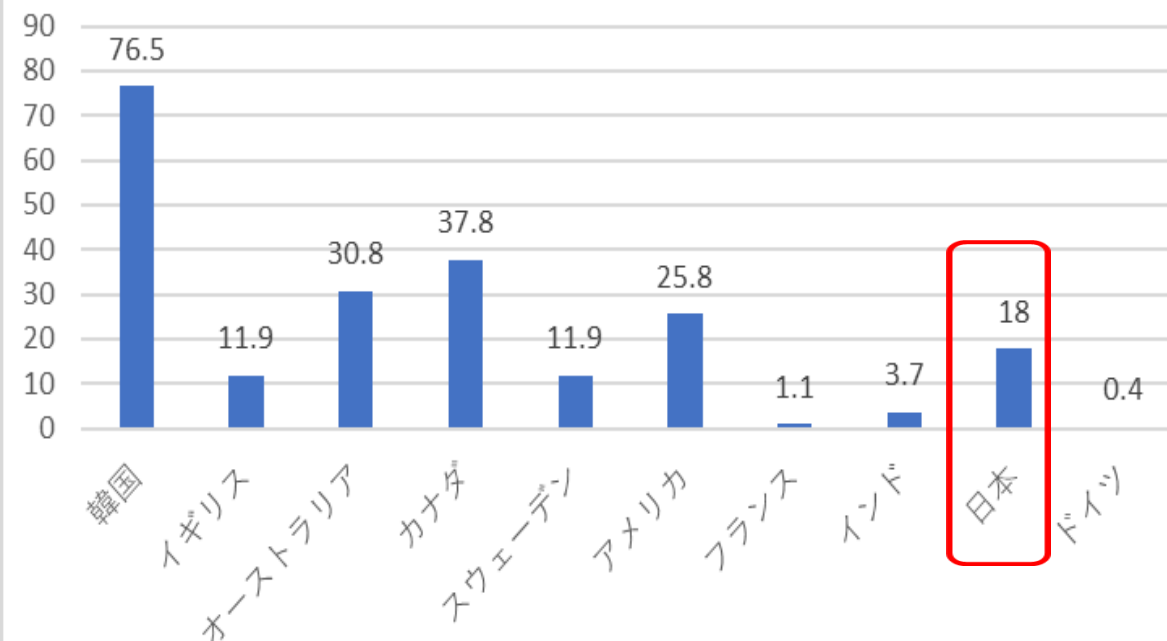


グラフ引用先: キャッシュレスの現状と推進 (経済産業省資料)

各国のクレジットカード契約率



各国のクレジットカード決済比率



引用先：日本クレジット協会（資料）日本のクレジット統計2017年版

総務省統計局 世界の統計2017 第2章 人口

外務省 スウェーデン基礎データ

クレジットカード契約率と利用率

クレジットカード契約率は高い  クレジットカード利用率は低い

クレジットカードを保有しているが、利用していない人がいる

= **休眠カード**が存在



回帰分析① クレジットカード契約率

回帰分析② 休眠カード率

分析方法

回帰分析 $\underline{Y} = a\underline{X1} + b\underline{X2} + c\underline{X3} + d\underline{X4}$

説明変数 $\underline{Y}$ { 回帰分析① $\underline{Y}$ = クレジットカード契約率
回帰分析② $\underline{Y}$ = 休眠カード率

被説明変数 $\underline{X}$ { $\underline{X1}$ = 若い世代(20代~40代) $\underline{X2}$ = 年配世代(50代~)
 $\underline{X3}$ = 1世帯当たりの構成人員 $\underline{X4}$ = 年収

データ母数 : (9区分の地域分け) × (5年分) = データ母数 45

北海道・東北・関東・北陸・中部・
近畿・中国・四国・九州

2013年~2017年

回帰分析①

クレジットカード契約率 予想

クレジットカード契約率: 高い

→ではその要因は？

予想

- 若い世代(20代から40代) →高い
- 年配世代(50代以上) →低い
- 一世帯当たりの構成人員 多い →高い
- 年収 高い →高い

回帰分析① クレジットカード契約率

	係数	標準誤差	t	P-値
切片	0.000206	4.16E-05	4.960804	1.34E-05
20～40代	0.00018	7.96E-05	2.263129	0.029126
50～70代以上	-0.00011	4.73E-05	-2.32852	0.025024
一世帯当たりの構成人員	-3.9E-05	1.14E-05	-3.37322	0.00166
年収	1.11E-08	4.51E-09	2.455286	0.01852

回帰分析① クレジットカード契約率 結果と予想の相違

- 若者(20代から40代) →高い
- 高齢(50代以上) →低い
- 一世帯当たりの構成人員 多い →低い
- 年収 高い →高い

回帰分析① 考察

➤なぜ世帯構成人員が多いとクレジットカード契約率が低い？

- 予想 大人数の家庭はスーパーの利用頻度UP
→スーパーが発行しているクレジットカードを契約する
- 結果 一世帯当たりの構成人員が多い
→田舎が多い
→都会と比較してクレジットカード契約の機会が少ない

回帰分析② 休眠カード率

定義：(休眠カード率)

$$= (\text{クレジットカード契約率}) - (\text{ネットショッピング利用率})$$

予想

- 若者(20代から40代) →低い
- 高齢(50代以上) →高い
- 一世帯当たりの構成人員 多い →低い
- 年収 高い →低い

回帰分析② 休眠カード率

	係数	標準誤差	t	P-値
切片	1.68611	0.42808	3.938773	0.00032
20～40代	0.922333	0.81933	1.125716	0.266995
50～70代以上	-0.69539	0.486921	-1.42813	0.161016
一世帯当たりの構成人員	-0.35556	0.11748	-3.02654	0.004312
年収	0.000127	4.64E-05	2.726754	0.009449

回帰分析② 休眠カード率 結果と予想の相違

- 若者(20代から40代) →高い
- 高齢(50代以上) →低い
- 一世帯当たりの構成人員 多い →低い
- 年収 高い →高い

回帰分析② 考察

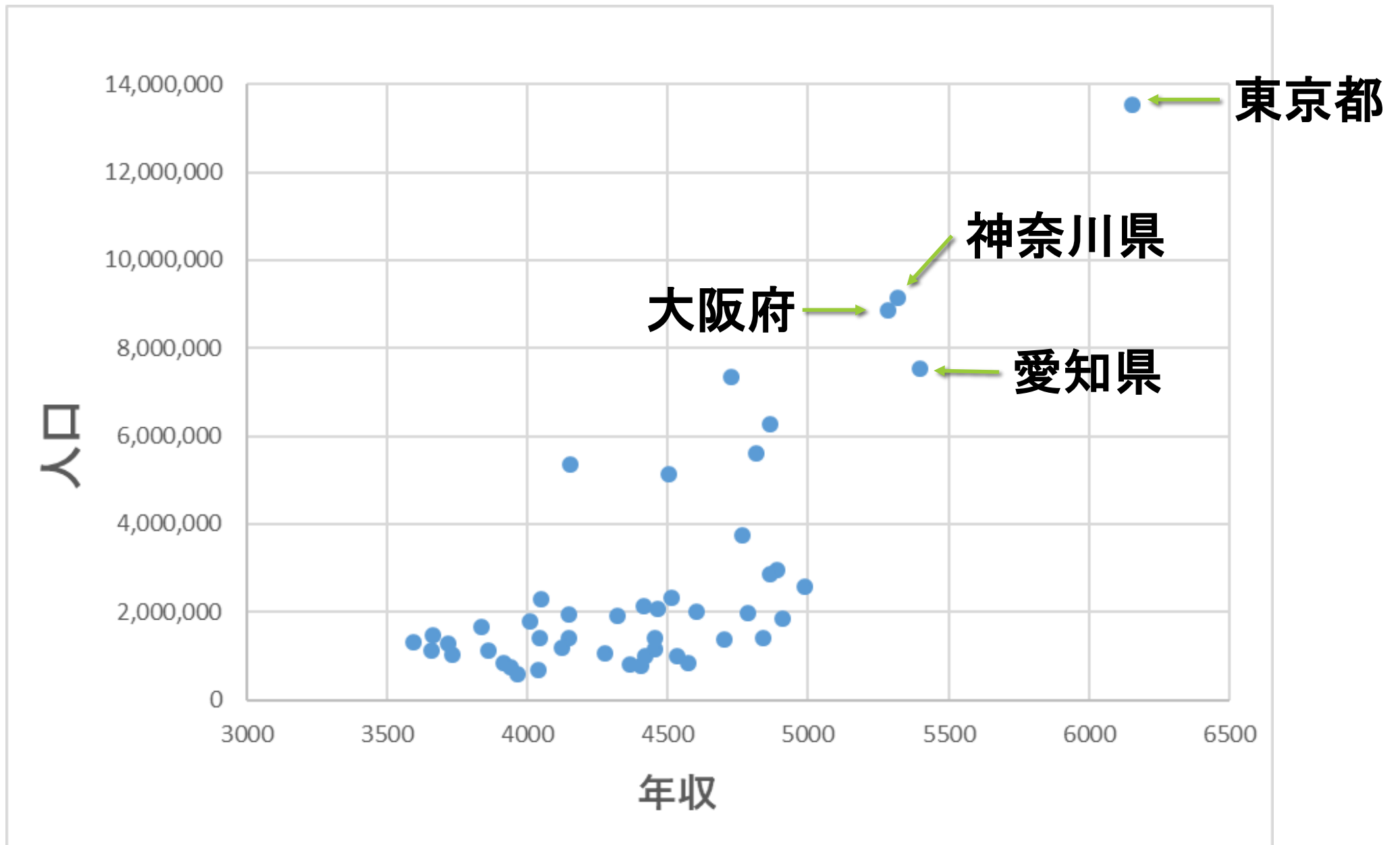
➤なぜ年収が高いと休眠カード率が高い？

- 予想 高額な買い物にクレジットカード決済

- 結果 年収高い

 - 都会に多い

 - 契約するだけで利用しないカードを保有する人が多い

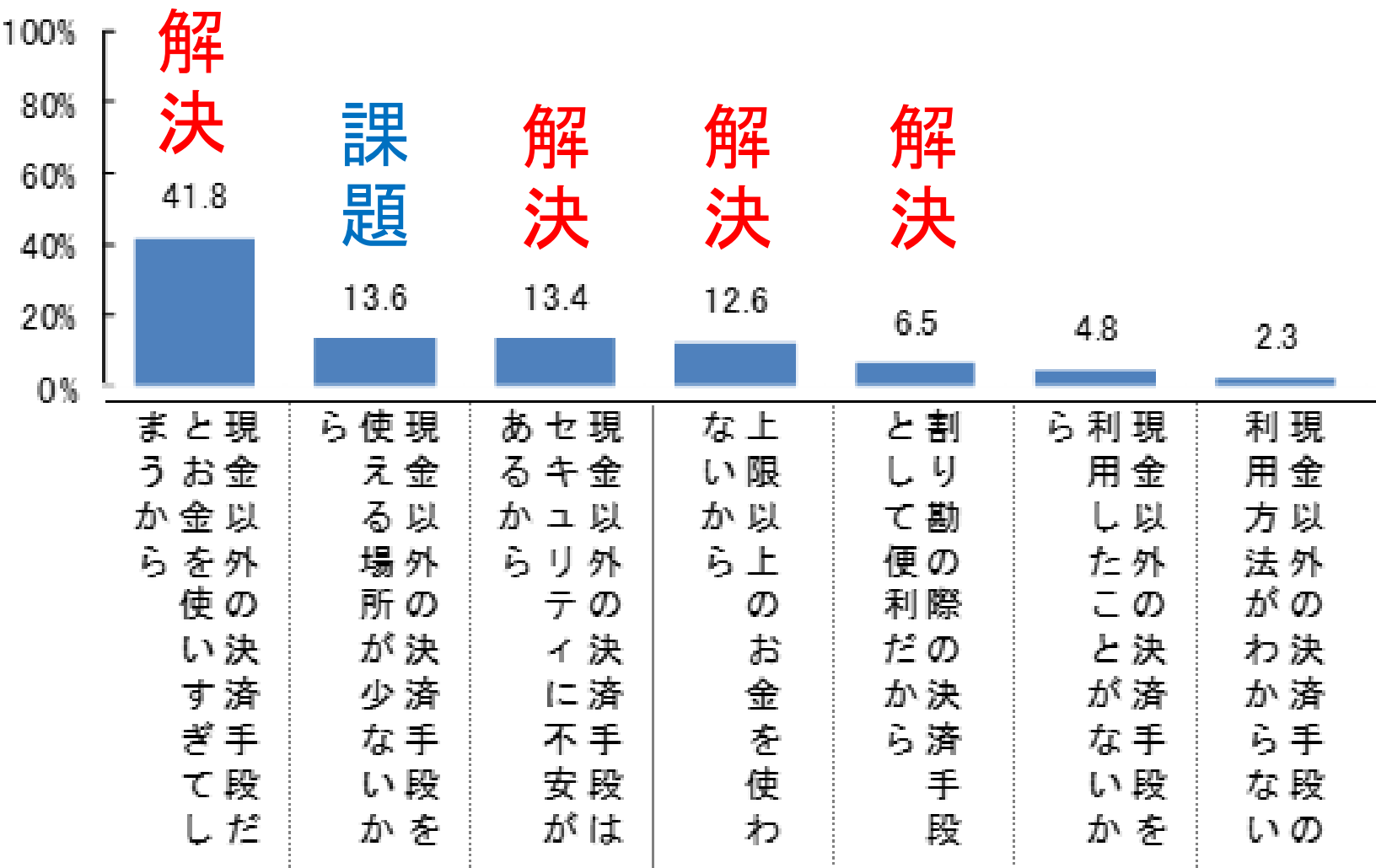


都会の消費者がクレジットカードを
使用しない大きな要因として

知識 と 経験

が不十分である

◇【「現金」選択者】選択した決済方法を最も利用する理由（n=478:最も利用する決済方法が「現金」の人）複数選択 単位：％



引用先:楽天インサイト「キャッシュレス決済に関する調査」

一度使う機会を設け、利便性を知ってもらう必要がある。



都会に多いコンビニにキャッシュレス決済のみのレジをつくり、消費者に利便性を感じてもらう政策

政府によるキャッシュレス決済客に対して2%ポイント還元

結論

ひとによってアプローチは異なる



知識から



経験から

個人での意識改革の限界

➡政府主導によるキャッシュレス化の推進

参考文献

<http://cardvirgin.com/2062>

<https://www.ebisumart.com/blog/cashless/>

<https://usa.visa.com/dam/VCOM/download/visa-everywhere/global-impact/impact-of-electronic-payments-on-economic-growth.pdf>

一般社団法人日本クレジット協会

https://www.j-credit.or.jp/information/statistics/download/toukei_03_h_2018_180615.pdf

e-stat 政府統計の総合窓口 住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数調査

<https://www.e-stat.go.jp/stat-search/files?page=1&layout=datalist&toukei=00200241&tstat=000001039591&cycle=7&tclass1=000001039601&second2=1>

e-stat 政府統計の総合窓口 賃金構造基本統計調査

https://www.e-stat.go.jp/stat-search/database?page=1&toukei=00450091&tstat=000001011429&survey=%E8%B3%83%E9%87%91%E6%A7%8B%E9%80%A0&result_page=1

e-stat 政府統計の総合窓口 通信利用動向調査

<https://www.e-stat.go.jp/stat-search/file-download?statInfId=000031730399&fileKind=0>

ご清聴ありがとうございました。